

果 樹 の 生 育 概 況

令和 7 年 7 月 16 日現在
福島県農業総合センター果樹研究所

1 気象概況

7 月 1 ～ 3 半旬の平均気温は 25.7℃で、平年より 3.3℃高かった。また、この期間の降水量は 19.0mm で平年比 20%、日照時間は 89hr で平年比 116%であった（表 1）。

表 1 半旬別気象表（果樹研究所）

月	半旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
		本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
7	1	26.7	21.8	+4.9	33.0	26.4	+6.6	22.4	18.1	+4.3	8.5	27.5	30.9	28.2	25.5	110.6
	2	27.6	22.4	+5.2	33.0	26.9	+6.1	23.2	18.9	+4.3	1.5	27.4	5.5	34.8	25.6	135.9
	3	22.9	23.1	-0.2	27.0	27.5	-0.5	19.8	19.3	+0.5	9.0	41.5	21.7	26.4	26.1	101.1
平均・合計		25.7	22.4	+3.3	31.0	27.0	+4.0	21.8	18.8	+3.0	19.0	96.4	19.7	89.4	77.2	115.8

2 土壌の水分状況

7 月 14 日時点の土壌水分（pF 値：果樹研究所ナシほ場：草生・無かん水）は、深さ 20～60cm で 2.9 となっており、乾燥状態である（図 1）。

（深さ 20cm は 6 月 21～30 日、7 月 7～8 日までデータ欠損）

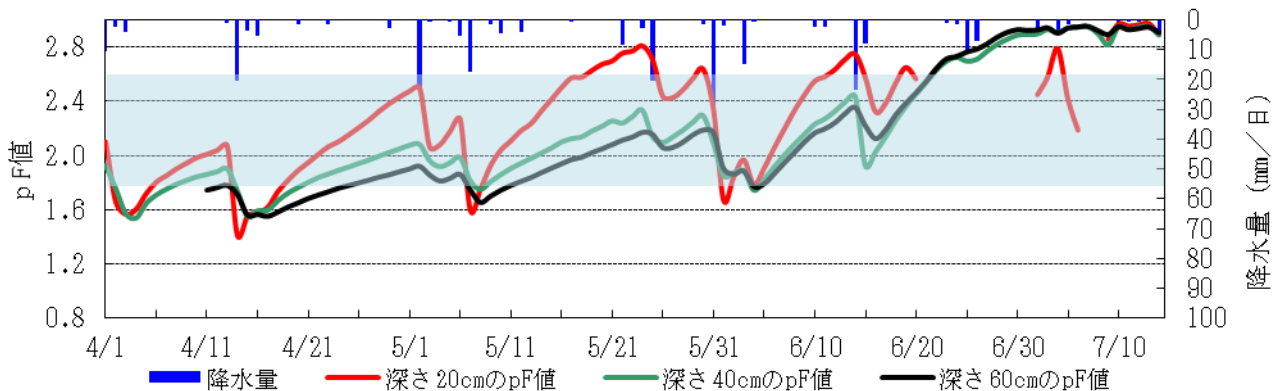


図 1 土壌 pF 値の推移（果樹研究所ナシほ場：草生・無かん水）

図中の網掛け部は、適湿の範囲（pF1.8-2.6）を示す

3 生育状況

（1）モモ

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「あかつき」は縦径が 64.3mm で平年比 112%、側径が 72.4mm で平年比 121% と平年より大きい。「ゆうぞら」は縦径が 57.9mm で平年比 108%、側径が 54.7mm で平年比 118% と平年より大きい。満開後日数で比較すると、両品種ともに平年よりやや大きい（図 2）。

イ 新梢生長

満開後 90 日における「あかつき」の新梢長は 19.3cm（平年比 139%）で平年よりかなり長く、展葉数は 18.0 枚（平年比 114%）で平年より多く、葉色は 41.8（平年比 94%）で平年よりやや低かった。「ゆうぞら」は、新梢長が 28.1cm（平年比 181%）でかなり長く、展葉数は 21.3 枚（平年比 140%）でかなり多く、葉色は 41.6（平年比 92%）で平年よりやや低かった。新梢停止率は「あかつき」が 90.0%（平年比 100%）で平年並、「ゆうぞら」が 85.0%（平年比 95%）で平年よりやや低い（表 2）。

ウ 核障害の発生

満開後 85 日における「あかつき」の核障害発生率は、核頂部亀裂が 5.0% で平年よりかなり少なく、縫合面の割裂が 45.0% と平年より多い傾向にある（表 3）。

エ 収穫状況

本年の「はつひめ」の収穫盛は 7 月 4 日で平年より 5 日早く、昨年より 2 日遅かった。果実の大きさは 316 g で平年より大きく、糖度は 13.0° Brix で平年より高かった。

「日川白鳳」の収穫盛は 7 月 6 日で平年より 10 日早く、昨年より 3 日遅かった。果実の大きさは 251 g で平年よりやや大きく、糖度は 13.3° Brix で平年よりかなり高かった。

「暁星」の収穫始めは、7 月 15 日で平年より 6 日早く、昨年より 7 日遅かった（表 4）。

オ 発育予測

DVR モデルによる「あかつき」の発育予測について、気象庁の気象予報を用いた場合は、本年の収穫開始日は 7 月 27 日で平年より 4 日早く、収穫盛期日は 7 月 31 日で平年より 4 日早いと予測される（表 5）。

なお、この時期の生育は直前の気温に左右され、今後の気温の推移により、大きく変動する場合があるので注意する。

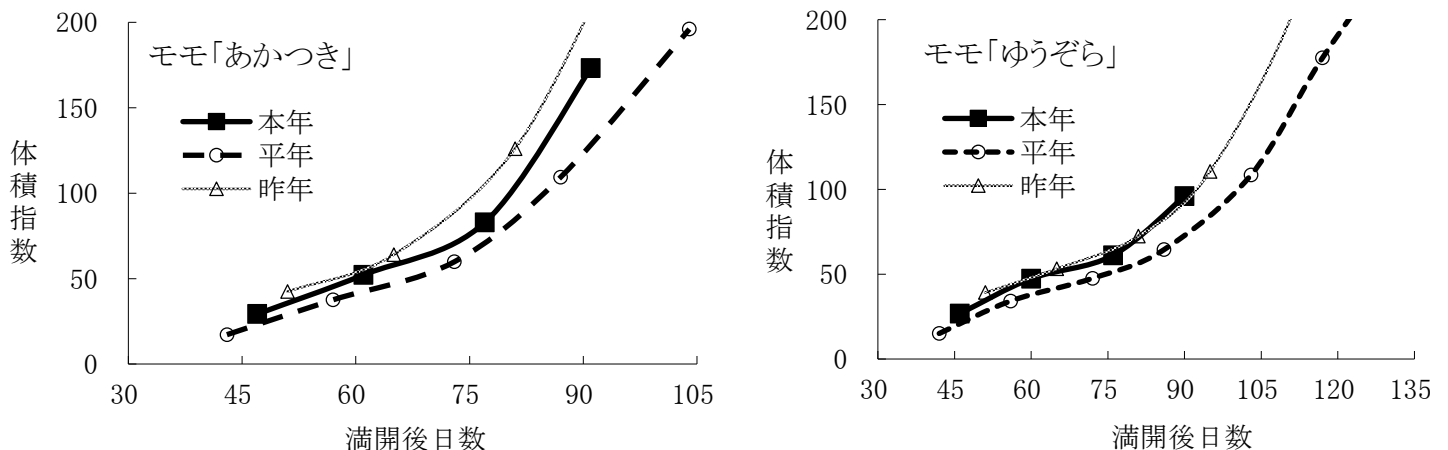


図 2 モモの果実肥大

表 2 モモの新梢伸長（満開後 90 日調査）

品種	新梢長 (cm)			展葉数			葉色 (SPAD)			新梢停止率 (%)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
あかつき	19.3	13.9	139	18.0	15.8	114	41.8	44.6	94	90.0	90.4	100
ゆうぞら	28.1	15.5	181	21.3	15.2	140	41.6	45.0	92	85.0	89.9	95

注) 平年値は 1996～2020 年までの平均値。

表 3 モモの核障害発生状況（品種：あかつき）

年	満開後日数	30日	45日	50日	55日	60日	65日	70日	75日	85日	95日	収穫果
2025	核頂部亀裂	30.0	40.0	30.0	20.0	25.0	10.0	20.0	0.0	5.0	—	—
	縫合面割裂	0.0	0.0	0.0	0.0	15.0	15.0	40.0	25.0	45.0	—	—
2000 ～2020	核頂部亀裂	35.1	37.1	45.5	51.9	53.3	50.7	49.1	42.9	48.1	49.3	48.8
	縫合面割裂	0.0	0.0	1.7	2.4	11.4	22.1	23.0	21.9	32.6	36.8	24.6

注) 平年値は 2001～2020 年までの平均値。

表 4 モモの収穫状況

品種	収穫始め			収穫盛り			収穫終わり			果実重 (g)			糖度 (° Brix)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
はつひめ	6/30	7/6	6/28	7/4	7/9	7/2	7/7	7/13	7/4	316	264	303	13.0	11.8	12.7
日川白鳳	7/3	7/13	7/1	7/6	7/16	7/3	7/10	7/20	7/4	251	236	211	13.3	11.0	12.8
暁 星	7/15	7/21	7/8	未	7/25	7/10	未	7/29	7/11	未	221	211	未	13.0	14.0
ふくあかり	未	7/21	7/12	未	7/27	7/15	未	7/31	7/16	未	266	306	未	13.0	12.8
あかつき	未	7/31	7/19	未	8/4	7/22	未	8/9	7/29	未	269	343	未	13.0	13.2

注) 平年は、1991 年～2020 年（「はつひめ」「ふくあかり」は 2009 年～2020 年）の平均値。

表 5 モモ「あかつき」の発育予測

[発育速度 (DVR) モデルによる発育予測：7 月 15 日現在]

	観測日		今後の気温経過			
	昨 年	平 年	気象予報	平年並	2℃高い	2℃低い
収 穫 開 始 日	7 月 19 日	7 月 31 日	7 月 27 日	7 月 27 日	7 月 27 日	7 月 27 日
収 穫 盛 期 日	7 月 22 日	8 月 4 日	7 月 31 日	7 月 31 日	7 月 31 日	7 月 31 日

注 1) 平年は 1991～2020 年の平均値。

注 2) 今後の気温経過の気象予報とは、気象庁が発表している週間予報、2 週間気温予報及び 1 ヶ月予報気温（3～4 週目の平均気温）を反映し、以降の気温は平年並に経過した場合の予測値。

注 3) モモ「あかつき」の発育予測は 1～2 日の誤差があることに留意する。

(2) ナシ

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「幸水」は縦径が 43.0mm で平年比 101%、横径が 53.6mm で平年比 105%と平年並である。「豊水」は縦径が 47.4mm で平年比 110%、横径が 54.0mm で平年比 115%と平年より大きい。満開後日数で比較すると、「幸水」は平年よりやや小さく、「豊水」は平年よりやや大きい（図 3）。

イ 新梢生長

満開後 80 日における「幸水」の予備枝新梢長は 111.6cm（平年比 99%）で平年並、不定芽新梢長は 105.3cm（平年比 107%）で平年よりやや長かった。予備枝新梢の葉枚数は 31.8 枚（平年比 104%）で平年並であった。予備枝新梢伸長停止率は 100%、不定芽新梢伸長停止率は 100%である（表 6）。

満開後 80 日における「豊水」の予備枝新梢長は 110.6cm（平年比 104%）で平年並、不定芽新梢長は 85.6cm（平年比 95%）で平年よりやや短かった。予備枝新梢の葉枚数は 31.9 枚（平年比 111%）で平年より多かった。予備枝新梢伸長停止率は 79.1%、不定芽新梢伸長停止率は 93.6%である（表 6）。

ウ 裂果発生状況

「幸水」における裂果は、7 月 15 日現在で確認されていない。

エ 収穫期予測

DVR モデルによる収穫盛期の予測は、8 月 23 日頃で平年より 6 日早い見込みである（7 月 15 日現在）。

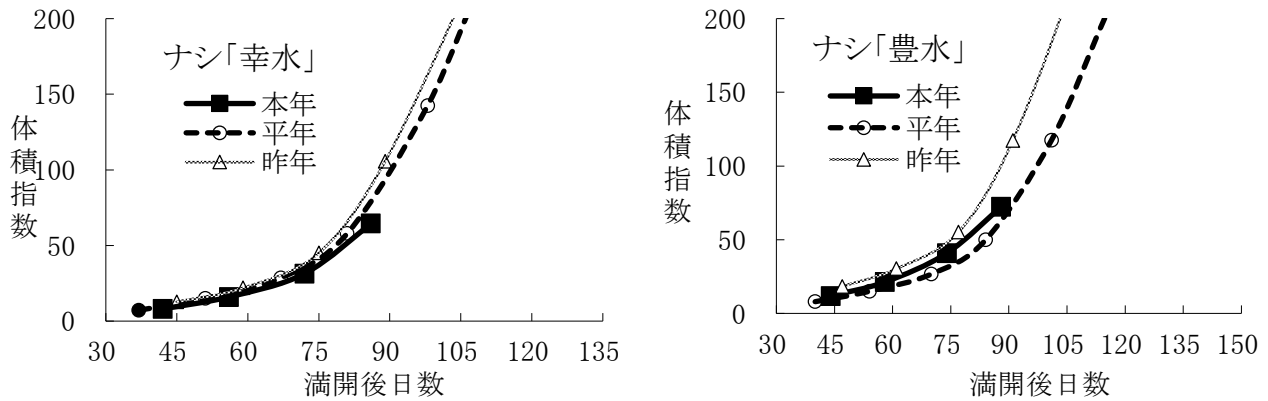


図3 ナシの果実肥大

表6 ナシの新梢生長（満開後80日）

品種	予備枝新梢長 (cm)			不定芽新梢長 (cm)			予備枝葉数 (枚)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
幸水	111.6	112.7	99	105.3	98.2	107	31.8	30.5	104
豊水	110.6	106.8	104	85.6	90.2	95	31.9	28.9	111

品種	予備枝新梢停止率 (%)			不定芽新梢伸長停止率 (%)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
幸水	100	90.4	111	100	90.2	111
豊水	79.1	88.4	89	93.6	87.8	107

注) 平年値: 「幸水」の新梢長は1990～2020年、葉枚数は1998～2020年、「豊水」の新梢長は1991～2020年、葉枚数は1998～2020年の平均

(3) リンゴ

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「つがる」は縦径が59.8mmで平年比101%、横径が69.0mmで平年比102%と平年並である。「ふじ」は縦径が54.1mmで平年比103%、横径が57.7mmで平年比101%と平年並である。満開後日数で比較すると、両品種ともに平年よりやや小さい(図4)。

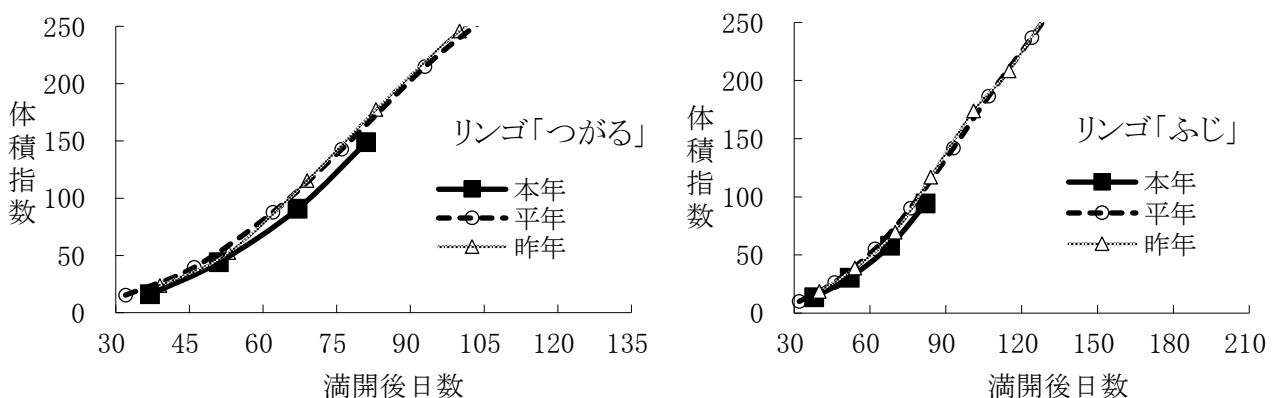


図4 リンゴの果実肥大

(4) ブドウ

「巨峰」の着色開始は、7月11日で平年より7日早かった。

「あづましずく」の着色開始は、7月8日で平年より6日早かった（表7）。

表7 ブドウの着色開始の状況

品種	着色開始日						
	2025	2024	2023	2022	2021	2020	平年
巨峰	7/11	7/11	7/10	7/14	7/19	7/21	7/18
あづましずく	7/8	7/1	7/4	7/11	7/12	7/17	7/14

注）平年値は、2008～2024年の平均

4 栽培上の留意点

（1）共通

ア かん水

5月から夏期にかけて果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm程度であるので、1回のかん水は25～30mm程度（10a当たり25～30t）を目安とし、5～7日間隔で実施する。保水性が劣る砂質土壤などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くする。

イ 草刈り

樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行う（地表面からの蒸発散量は、草生園において刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分とされる）。

ウ マルチ

刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努める。

（2）モモ

ア 中生品種の収穫前管理

「あかつき」の収穫期予測では、平年より4日早い見込みである。また、核障害の発生が多い場合には、核や胚に障害を持つ果実が早熟する傾向にあるので注意が必要である。「あかつき」等中生種は今月上～中旬頃から着色期に入るため、夏季せん定、支柱立てや枝吊り、反射シートの設置など収穫前の管理が遅れないよう計画的に実施する。

（3）ナシ

ア 新梢管理

「幸水」では、腋花芽着生向上を目的として新梢誘引を実施する場合、新梢生長が停止する前に予備枝誘引作業を完了する必要がある。まだ終わっていない場合は急いで作業を進めるようにする。

また、新梢誘引は樹冠内の光条件を改善するとともに、薬剤の散布むらを減らし、翌春における長果枝棚付け作業の効率化なども期待できるので「幸水」以外の品種でも積極的に実施する。

イ 着果管理

裂果が観察される時期の摘果は他の果実の裂果発生を助長するおそれがあるので控え、裂果が収束（満開後90日頃）したら修正摘果を実施する。

（4）リンゴ

ア 修正摘果

果実肥大や果形、障害の有無等の区別がつきやすい時期なので、小玉果、変形果、病害虫被害果、サビ果を中心に修正摘果を実施する。

イ 枝吊り・支柱立て

果実の肥大にともない枝が下垂するので、樹冠内部の受光条件の改善、枝折れ防止及び防除効果の向上のため支柱立て及び枝吊りを実施する。なお、高温条件下では、果実に直射日光が当たると日焼け果が発生しやすくなるため、果実が果そう葉で隠れ

るようにするなど着果位置に留意する。

(5) ブドウ

ア 着果管理

ブドウの着色始めは、果房中のいくつかの果粒が飛び玉状に濃く着色するのが望ましい。全体的にぼんやりと色がまわってくるような場合は、着果過多によるものと考えられるため、早急に着房数の見直しを行う。また、着色期の日照不足も着色不良を招くため、込み合っている部分の新梢の整理も併せて行う。

イ 新梢管理

新梢が遅伸びすると、光合成により生産された養分は新梢の伸長に消費され、果実への転流が少なくなる。果実品質の低下や新梢の登熟不良を防ぐために、遅伸びしている新梢の摘心や余分な新梢の整理と誘引の見直し、副梢の整理と摘心等を実施し、棚面の明るさを確保する。

具体的には、7月下旬～8月上旬頃に、伸長が停止していない新梢を摘心する。摘心は、新梢先端の生長点を軽く摘む程度に行うと副梢の発生が少ない。伸長が停止しない副梢は2～3葉残して摘心する。伸長が停止しそうな弱い副梢は棚面が混み合わなければ、そのまま放置してもかまわない。摘心後も棚下が暗い場合は、徒長的な新梢を中心に、新梢の間引きを行う。このとき、間引く本数は必要最小限にとどめるようにする。

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病害

ア リンゴ褐斑病

本年は褐斑病の発生は場割合が平年より高く（令和7年6月30日付け病虫害防除情報）、所内の予察調査樹（殺菌剤無散布）でも、平年より高い発病葉率となっている。梅雨期の降雨により、今後発生が急拡大するおそれがあるため、本病の発生状況を注視する。既に本病の発生が認められる場合は、オンリーワンフロアブル 2,000倍、ストロビードライフフロアブル 3,000倍、トップジン M 水和剤 1,500倍、ナリア WDG 2,000倍、パレード 15フロアブル 2,000倍、ファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍、フリントフロアブル 25 3,000倍、ユニックス顆粒水和剤 47 2,000倍の中から薬剤を選択して使用し、感染拡大を防止する。ただし、薬剤耐性菌が発生しやすいため、DMI 剤、QoI 剤及び SDHI 剤の連用は避け、使用回数には十分注意する。また、トップジン M 水和剤については、既に耐性菌の発生が確認されている地域があるため、注意する（平成30年度参考成果）。

本病が多発すると罹病落葉での子のう胞子の越冬量が増加し、次年度の多発を招くおそれがあるため、防除間隔が空かないよう 10 日間隔での防除を徹底し、感染拡大を防止する。

イ リンゴ輪紋病、炭疽病

輪紋病の防除対策として、7月下旬～8月上旬頃にベフラン液剤 25 1,500倍またはベルクト水和剤 1,000倍を使用する。なお、炭疽病の発生が懸念される園地では、これらの薬剤にかえてオーソサイド水和剤 80 800倍を使用する。

ウ モモ灰星病、ホモプシス腐敗病

梅雨期は灰星病の重点防除期であるため、降雨前に防除を実施する。薬剤の使用に当たっては、農薬使用基準（収穫前日数、使用回数）に十分注意する。晩生種に対しては、ホモプシス腐敗病の防除対策も必要であるため、7月中下旬頃にダコレート水和剤 1,000倍を使用する。

(2) 虫害

ア モモハモグリガ

今後の気温が2℃高く推移した場合、モモハモグリガの第3世代成虫の誘殺盛期は、7月4半旬頃と予測され、第4世代の防除適期は7月4半旬頃と推定される。第4世代成虫の誘殺盛期は、8月1半旬頃と予測され、第5世代の防除適期は8月2半旬頃

と推定される（表 8）。

本種の発生には放任園や無防除のハナモモ園が影響していると考えられるため、こうした発生源が近隣に存在する園地では、今後も発生に注意する。

イ ナシヒメシンクイ

今後の気温が 2℃ 高く推移した場合、ナシヒメシンクイ第 2 世代成虫の誘殺盛期は、7 月 3 半旬であると予測され、第 3 世代幼虫の防除適期は、7 月 4 半旬頃と推定される。第 3 世代成虫の誘殺盛期は、8 月 1 半旬頃と予測され、第 4 世代幼虫の防除適期は、8 月 2 半旬頃と推定される（表 8）。

本種はモモ等の核果類の新梢伸長が停止するとナシ果実への寄生が増加する。例年、ナシでの果実被害が多い地域では、近隣のモモ等における防除も徹底する。なお、薬剤による防除を実施する場合には、使用基準を遵守する。

ウ ナシマルカイガラムシ

今後の気温が 2℃ 高く推移した場合、ナシマルカイガラムシ第 2 世代のふ化開始は、7 月 4 半旬頃と予測され、ふ化盛期は 7 月 6 半旬頃と推定される（表 8）。

カイガラムシ類はふ化期の防除が重要であるため、防除適期を逃さないように防除する。

エ ハダニ類

病害虫防除所の 6 月中下旬巡回調査におけるハダニ類の発生ほ場割合は、リンゴ、モモでは平年よりやや高く、ナシではやや高い～平年並みであった（7 月 10 日付け令和 7 年度病害虫防除情報）。高温期は増殖が速いのでハダニ類の発生状況をよく確認し、要防除水準（1 葉当たり雌成虫 1 頭以上）の密度になったら速やかに防除を行う。

オ カメムシ類

病害虫防除所のフェロモントラップ調査におけるカメムシ類の越冬世代の誘殺数は、平年より多い傾向にある（7 月 10 日付け令和 7 年度病害虫発生予察情報注意報第 1 号）。飛び込みをよく観察し、多数の飛来が見られる場合は速やかに防除を行う。

表 8 果樹研究所における防除時期の推定（令和 7 年 7 月 15 日現在）

モモハモグリガ				
今後の気温予測	第 3 世代 誘殺盛期	第 4 世代 防除適期	第 4 世代 誘殺盛期	第 5 世代 防除適期
2℃ 高い	7 月 16 日	7 月 19 日	8 月 3 日	8 月 7 日
平年並	7 月 16 日	7 月 21 日	8 月 5 日	8 月 8 日
2℃ 低い	7 月 16 日	7 月 21 日	8 月 6 日	8 月 10 日
起算日：モモハモグリガ第 2 世代誘殺盛期 6 月 25 日（予測値）（演算方法は三角法）				

ナシヒメシンクイ				
今後の気温予測	第 2 世代 誘殺盛期	第 3 世代 防除適期	第 3 世代 誘殺盛期	第 4 世代 防除適期
2℃ 高い	7 月 11 日	7 月 18 日	8 月 4 日	8 月 10 日
平年並	7 月 11 日	7 月 20 日	8 月 8 日	8 月 14 日
2℃ 低い	7 月 11 日	7 月 20 日	8 月 10 日	8 月 18 日
起算日：ナシヒメシンクイ第 1 世代誘殺盛期 6 月 17 日（予測値）（演算方法は三角法）				

ナシマルカイガラムシ		
今後の気温予測	第 2 世代 ふ化開始	第 2 世代 ふ化盛期
2℃ 高い	7 月 19 日	7 月 28 日
平年並	7 月 21 日	7 月 31 日
2℃ 低い	7 月 21 日	8 月 1 日
起算日：ナシマルカイガラムシ 3 月 1 日（演算方法は三角法）		